

Pro-Series Stoves ユーザーガイド

以下のユニットに適用されます。**F3500、F5100、F5200**

Proシリーズの薪ストーブは、通常の無触媒ストーブとは異なる技術を採用しています。新しいハイブリッド技術を採用したPro-Seriesユニットは、高効率で長時間燃焼する機器です。

Pro-Seriesのテクノロジーと推奨される薪の燃焼プロセスを理解することで、暖房シーズン中の燃焼時間を延長し、より少ない薪での使用を実現することができます。

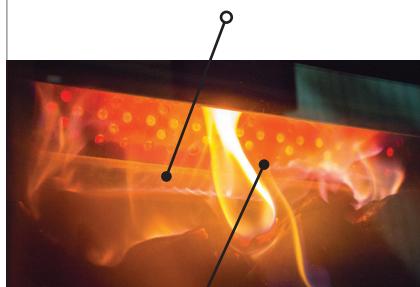
技術情報

Regency Proシリーズのユニットは、Eco-Boost™テクノロジーと呼ばれるハイブリッド触媒システムで動作します。このハイブリッドシステムは、燃料をゆっくりと燃焼させて、その能力を最大限に発揮させます

Eco-Boost™ Hybrid System

2次エアチューブ

燃焼初期の空気中の排気を浄化し、高出力を実現します。



バイパスを閉じた状態で、ファイアボックス（前面上部）に設置
（前面上部）

触媒式燃焼器

煙突に入った木の煙をゆっくりと再燃焼させることで、安定した熱を生み出し、燃やしてくれます。

長時間の燃焼手順

F5100 & F5200では10-30時間、F3500では10-24時間の最大燃焼時間を得るために、ファイアーボックスが完全に装填された後、ファイアーボックスと触媒を最高温度（500°F, 260°C以上）にすることが重要です。その時になって初めて初めて、バイパスダンパーとドラフトコントロールを閉じて、長時間の燃焼を行う必要があります。

・起動手順



1) 焚き火を始める前に、バイパスダンパーを開け、ドラフトコントロールを全開にしてください。



3) 焚き火をしながら、火が定着するまで薪を足していきます。

5~10分後に中くらいの大きさの丸太を入れ、さらに5~10分後にドアを閉めます。



2) 乾いた薪と丸めた新聞紙を使って通常通り火床を作り、扉を少し開けて点火する。



4) 火が定着してきたら、大きめの丸太を焚き口いっぱいに入れていきます。通常、20~30分後には、温度が「アクティブ」ゾーン（500°F (260°C) 以上）に達し、バイパスダンパーを閉じることができます。

5) 好みの燃焼速度になるようにドラフトコントロールを調整します。



・連続運転の手順



1) 本体と煙突が動作可能な温度になっていれば、再点火作業にかかる時間は短くて済みます。燃焼サイクルが終わり、ユニットを再起動するときは、ドアを開ける前にファンを切り、火かき棒で炭を散らします。



2) その後、薪や中型の丸太を入れる
薪はすぐに火がつきます。上記のSTEP4にしたがって、次のロングバーンに備えて、火を起こして火箱をいっぱいにします。

常に最低1~2インチの灰を残しておきます。灰を残しておくことで、焚き口が断熱され、高温の炭や燃えかすが維持され、よりきれいに、より長く燃焼させることができます。

性能オプション

Proシリーズのユニットは柔軟性と汎用性を備えています。また、低めの温度に設定すれば、1回の使用で何時間も熱を保つことができます。

高速・高燃焼



最大限の熱量を得て、美しい炎を演出したい。
雰囲気を楽しむことができます。

長期・安定燃焼



望み通りの長時間燃焼と均一な熱量を維持します。外出先や宿泊先での使用に最適です。

燃焼時間	短時間燃焼：3~6時間	長時間燃焼：10~24時間 (F3500) 10~30時間 (F5100、F5200)
温度	中・高出力	安定したムラのない出力
再燃焼	望ましい外観と雰囲気を維持するために、より頻繁に	少ない回数：希望する熱量に応じて1日2~3回
外観	大きな炎が揺らめく、木が割れるような音がする、火が本体上部前面付近の触媒から煙道を通って上に移動する	炎の高さが低くなり、木の表面が白い灰になり、燃料が「焼ける」ようになり、薪がゆっくりと消費され、触媒が赤く光る。
薪の大きさ	必要に応じて、小、中、大のサイズのよく枯れた木を用意します。	緻密で大きな広葉樹のログは、最高の結果をもたらします。
バイパスダンパー	温度がアクティブゾーンに達した後、閉じられる (500° F, 260° C以上)	温度がアクティブゾーンに達した後、閉じられる (500° F, 260° C以上)
ドラフト制御	望ましい結果を得るために開く（または部分的に開く）。	閉鎖（もしくはほぼ閉鎖）

薪のサイズ ガイド

よりよい薪ストーブライフのために：

- たき付けや中割りの丸太には、早く燃やすために柔らかい木を使い、長く燃やすためにはよく枯らした硬い木を使う。
(含水率20%以下のものを使用)

これは、約 Pro-Seriesに入れる薪の1/2負荷



再点火する時：

新しい薪を投入する際には、煙が出ないようにバイパスダンパーとドラフトコントロールを全開にしてから投入することが大切です。

薪を再投入すると本体の温度が下がりますので、10~15分程度運転してからバイパスを閉じ、さらに10~15分程度運転してからドラフトコントロールを閉じてください。

ご存知ですか？

広葉樹は、同量の針葉樹よりも長く燃焼します。



灰の安全な除去

灰がまだ熱いことを想定して、スチール製のバケツを使って処理する。